テニス　大会レポート

全国高等学校体育連盟テニス専門部常任委員　茂野高徳

戦後 80 年という歴史的節目を迎えた令和 7 年、広島県福山市を舞台に全国高等学校総合体育大会テニス競技が開催された。7 月 28 日から 8 月 4 日まで連日の猛暑に負けず、全国から集まった高校生が「輝け君の青春　刻め努力の奇跡」のスローガンのもと熱戦を繰り広げた。

【開会式】

7 月 28 日（月）16 時より福山リーデンローズにて開会式が行われた。広島県高等学校体育連盟テニス専門部の横山尚司部長による開始宣言で始まり、前年度団体戦優勝校、個人戦優勝者から優勝旗・優勝杯の返還およびレプリカの贈呈が行われた。続いて、主催者からの挨拶を黒岩睦雄全国高体連テニス専門部長、土橋登志久日本テニス協会専務理事が行った。開催地より歓迎の言葉が、枝広直幹福山市長、平谷祐宏尾道市長、溝上健文広島県テニス協会会長、そして広島県立大門高等学校の山下将和さんから送られた。最後に、精華学園宮島高等学校男子主将渡邉咲玖さんと山陽女学園女子主将清田あいこさんが力強く選手宣誓をして開会式が締めくくられた。

選手宣誓

「『輝け君の青春　刻め努力の奇跡』のスローガンの下、インターハイテニス競技がここ広島県で開催されることを誇りに思います。私たちはこれまで仲間とともに苦しい練習を乗り越え、ついにこの憧れのインターハイの舞台に立つことができました。今、ここに立てているのは指導してくださる先生方を始め、いつもサポートしてくれる家族、切磋琢磨してきたチームメイト、そしてこの大会を準備してくださったすべての方のおかげです。原爆投下から 80 年を迎えた今年、テニスが出来ることが当たり前ではないということをこの広島の地に立ち改めて強く感じています。日頃の感謝の気持ちを忘れず、応援してくださるすべて方に感謝と感動を届けられるよう全力でプレーすることを誓います。」

【団体戦】
7 月 29 日（火）1・2 回戦　8 ゲームズプロセット
　会場：福山市竹ヶ端運動公園庭球場、こざかなくんスポーツパークびんご
7 月 30 日（水）3 回戦・準々決勝　8 ゲームズプロセット
　会場：福山市竹ヶ端運動公園庭球場
7 月 31 日（木）準決勝・決勝　3 セットマッチ（最終セット 10 ポイントマッチタイブレーク方式）
　会場：福山市竹ヶ端運動公園庭球場

　男子のベスト 8 はシード校が順当に勝ちあがり、湘南工大附（神奈川）・北陸（福井）・神村学園山梨（山梨）・大分舞鶴（大分）・四日市工（三重）・相生学院（兵庫）・関西（岡山）・柳川（福岡）の顔ぶれとなった。準々決勝はどのカードも接戦となったが、湘南工大附が北陸に、大分舞鶴が神村学園山梨に、相生学園が四日市工に、関西が柳川に勝利し、翌日の準決勝へと駒を進めた。準決勝からは 3 面進行で行われた。第 1 シードの湘南工大附は大分舞鶴に、相生学院は関西に勝利し決勝に進出した。2 年連続で同一カードとなった決勝戦は湘南工大附が相生学院を接戦の末下し、2 年連続 6 度目の優勝を飾った。

　女子のベスト 8 は相生学院（兵庫）・大商学園（大阪）・山陽女学園（広島）・沖縄尚学（沖縄）・鳳凰（鹿児島）・白鵬女子（神奈川）・岡山学芸館（岡山）・野田学園（山口）が勝ち進んだ。準々決勝は相生学園が大商学園に、山陽女学園が沖縄尚学に、鳳凰が白鵬女子に、岡山学芸館が野田学園にとシード校が順当に勝ち進んだ。準決勝では沖縄尚学が第 1 シードの相生学園に、野田学園が鳳凰に勝利した。決勝はシングルスを 2 本とった野田学園が沖縄尚学を下し、3 年ぶり 3 度目の日本一に輝いた。昨年のインターハイと 3 月の全国選抜大会は準優勝に終わった野田学園にとって悲願の優勝だった。

【個人戦】

８月１日（金）　男子ダブルス１回戦～準々決勝　　会場：福山市竹ヶ端運動公園庭球場
こざかなくんスポーツパークびんご
女子シングルス 1～4 回戦　　会場：福山市竹ヶ端運動公園庭球場
８月２日（土）　男子シングルス 1～4 回戦　　会場：福山市竹ヶ端運動公園庭球場
女子ダブルス１回戦～準々決勝　　会場：福山市竹ヶ端運動公園庭球場、
こざかなくんスポーツパークびんご
８月３日（日）　男女シングルス準々決勝・準決勝、男女ダブルス準決勝
会場：福山市竹ヶ端運動公園庭球場
８月４日（月）男女シングルス決勝、男女ダブルス決勝　　会場：福山市竹ヶ端運動公園庭球場

１・２回戦　　１セットマッチ
３回戦～準決勝　８ゲームズプロセット
決勝　　3 セットマッチ（最終セット 10 ポイントマッチタイブレーク方式）

＜シングルス＞

男子のベスト 4 には義基耀（四日市工)、柳宏優（相生学院)、土海悠太（関西)、奈良恒輝（湘南工大附）が勝ち上がった。準決勝は義基が柳に、奈良が土海に勝利した。決勝は第 1 シードの義基耀が、1 年生ながら勝ち上がった奈良恒輝を 6-4 7-5 のストレートで破り優勝した。

女子のベスト 4 には、早坂来麗愛（仙台育英)、川崎このは（野田学園)、櫻井利真（野田学園)、上方璃咲（野田学園）と団体戦の勢いをそのままに野田学園から 3 名が進出した。準決勝は早坂が川崎を、上方が櫻井を下して決勝に進出した。決勝は第 1 シードの早坂来麗愛が第 2 シードの上方璃咲を 6-1 6-3 のストレートで下し栄冠を手にした。

＜ダブルス＞

男子はベスト 4 に岡橋・中前（神村学園山梨）、佐藤・佐藤（海星学院）、松村・名雪（湘南工大附）、土海・竹本（関西）が勝ち上がった。準決勝は岡橋・中前が佐藤・佐藤に、松村・名雪が土海・竹本に勝って決勝に進出した。決勝は第 1 シードの岡橋・中前が松村・名雪を 6-4 6-2 のストレートで下して優勝した

女子は川崎・上方（野田学園）、五島・石田（神戸野田）、稲場・大塚（相生学院）、井手・渡久地（沖縄尚学）がベスト 4 に勝ち上がった。決勝は流れがめまぐるしく変わる展開となったが、第 2 シードの井手・渡久地が第 1 シードの川崎・上方を 6-1 2-6 10-7 で破り優勝した。

【結びに】

令和 7 年度全国高等学校総合体育大会テニス競技は、戦後 80 年という節目の年に、広島という特別な土地で行われたことで、競技以上の意味を持つ大会となった。技術や勝敗だけでなく、日々の努力への誇り、支えてくれる人々への感謝、そして平和な時代にスポーツができることへの感慨である。また、大会 2 日目にはカムチャッカ半島沖で大規模な地震が発生した。直接的な被害はなかったものの、日本の太平洋沿岸に津波注意報が発表され、選手・関係者の間には緊張が走り、自然の脅威と向き合う意識が高まる一日となった。

広島の空の下で交錯した歓喜と悔しさは、これから先の人生にも深い影響を与えるはずだ。この大会を支えてくださった全ての関係者の皆様に深く感謝申し上げるとともに、選手一人ひとりの今後のさらなる飛躍を心から願い、大会レポートの結びとさせていただく。

優勝
男子優勝